

U F O 研究の聖地に

福島県福島市飯野町の「U F O ふれあい館」内に、国際未確認飛行物体研究所（通称・U F O 研究所）が誕生した。

飯野町では、以前から千貫森（せんがんもり、標高462メートル）周辺で発光する飛行物体が目撃され、昭和50年代ごろから話題となっていた。1992（平成4）年、地域おこしの一環で千貫森の中腹にU F O ふれあい館が整備され、以来、「U F O の里」として知られるようになった。U F O ふれあい館は現在、福島市が所有し、指定管理者の飯野町振興公社が運営している。日本のU F O 研究の第一人者・故荒井欣一氏が寄贈した関連資料約3000点を収蔵しており、コロナ禍前は年間延べ3万人が訪れていた。

U F O 研究所は、地元の「いいの街なか活性化委員会」（会長・斎藤弘飯野町商工会長）が中心となって国内研究の拠点として設立した。名付けて「U F O の里いいの聖地化プロジェクト」。初代所長にはミステリー月刊誌「ムー」編集長の三上文晴さんが就いた。専用ホームページで国内外からU F O の写真や動画・目撃場所などの情報を集めて分析・公開する。飯野町でU F O の目撃情報が多い背景には千貫森の形がピラミッドに酷似している点や、方位磁石の針が定まらない程の磁気が発生している一などの説がある。会員らと現地を歩き、「千貫森の謎」にも迫る。U F O を巡っては、米国防総省の元担当者が5月に「U F O は実在する」と明言。6月25日には米情報機関を統括する国家情報長官室がU F O に関する報告書を公表するなど世界的に注目が集まっている。コロナ禍での開所に三上さんは「U F O が話題になることで、人々が空を見上げ、元気になるきっかけになってくれればうれしい」と話している。

福島民報社論説委員会幹事・紺野正人



UFO研究所が設立された福島市飯野町の「UFOふれあい館」



初代所長に就いた三上さん